



白石 実果さん

引き継いでいくこと

この土地、そしてここに住む人々に惹かれ、飛驒に移り住みました。そしてこの夏、あるひとつの古民家を引き継ぐことを夫と決めました。100歳以上の水屋や古民家の床を何度も水で拭いていくと、きれいな木目が顔を出します。

作られた当時のことを想像



田下 英男さん

ふるさと

少年時代は、近くの宮川で鮎やイワナを追い、夕方遅くまで友達と遊び、冬は裏山の狭い斜面で昼食も忘れスキーを楽しみました。

こんなに素晴らしい故郷はないという思いは高校を卒業して就職しても変わらず、昭和50

しながら古き物を引き継ぐことの喜びを噛みしめます。荏の油と米ぬかで磨いていくと輝きはどんどん増していきます。

「木は生きとるからな。何年経っていてもこちらが手入れをすればちゃんと応えてくれるんやぞ。」近所の方の言葉を噛みしめます。地元の方に支えられながら、大好きなこの土地で生きていきます。

古川町 白石 実果

市民の声

年に転勤希望が叶い、地元へ帰ることができました。

当時は人口が減少しつつも伝統ある地域の例祭や村民総がかりの夏祭り等が盛大に開催され、活気に満ちあふれていたと思います。

私は還暦を過ぎてまだまだ会社勤めの身であり、地域振興に對して何の力もありませんが、昔のような活気が地元に戻ることを期待しています。

宮川町 田下 英男



柿の実

繋げていくとうとうこと

あるとき飛驒の自然の奥深さ・美しさに触れ、縁あって河合町に住み11年が経とうとしています。普段は自然栽培・不耕起栽培で雑穀類を作りながら、自然案内や天生の森の

パトロールをさせていただいています。

今年には柿の実が大豊作で「柿餅が安気に作れる」と楽しみにしています。柿の灰汁合わせを上手くするには経験と勘が必要です。今では柿の灰汁合わせができる人が少なくなってきましたが「森の恵みを食べる知恵」を自分は受け継いでいきたいです。そんな理由で、今年も柿の灰汁合わせに挑戦してみます。興味がある方一緒にやってみませんか？

河合町 吉眞 陽子



吉中 亜紀子さん

地域の温もり

私が神岡に嫁いでから8年が経ちます。当初は戸惑うことや不安だらけの日々でしたが、知らない方も親切に声をかけていただきとても温かい町だなあと感じました。自分

の育った町へ帰ると神岡の様な人と人のコミュニケーションが少なくなったと思いました。

また地域ごとで行われるお祭りや行事、同級会などみんなが集まり交流する機会がたくさんあり、希薄化した今の時代にはあまりみられない独自の地域のつながりをこれからも子供達と一緒に大切にしていけたらと思います。

神岡町 吉中 亜紀子

編集後記

秋の朝、神原峠を下る。古川盆地は一面朝霧に覆われている。「今朝は霧ごんどうでええ天気になるな」そんな声が聞こえてくる。古川の朝霧は、夜温度が低下して重さを増し、山の斜面に沿って下がり、地底に集まり、風が日本海より運んだ塩について小さな塊となり空气中を漂うところを、朝太陽がそれを照らした様を言うそうである。霧のできる条件には風の強く吹く日が少ない、昼と夜の気温の差が大きい、盆地の底と囲む山々の高さの差が少ない、山々の日差しを遮るように切り立っていない等々。朝霧は暖かい日差しを約束し、田畑に恵みを与え大地や大気を潤している。飛驒市の現況は、少子、高齢化が進み、人口減少に歯止めがかからない。企業誘致できず、交流人口は伸びず、交付税の減額で財政の危機が浮かぶ。スモッグに包まれようとしている。全員一丸となり知恵を出し合い、条件を整え朝霧を見つけ出したものだ。(洞口 和彦)